

WEBでヒントを公開中。

愛知人権週間

検索

# 人権ノート

考えることから、はじめよう。



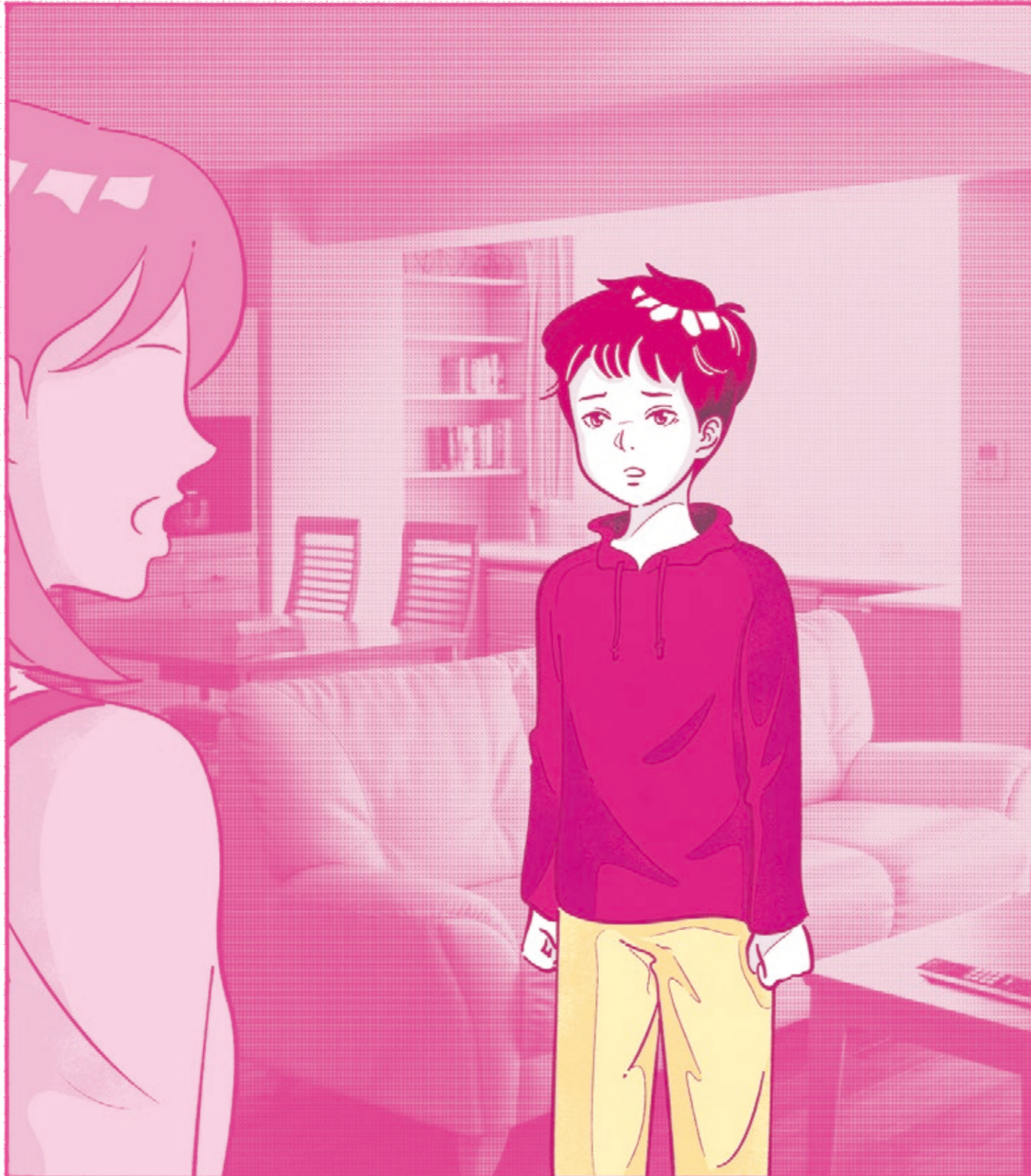
## 問題 あなたならどうしますか？

もし、誰かがいじめられていたら。  
差別を受けて悩んでいる人がいたら。  
あなたならどうしますか？  
答えはひとつじゃないけれど、  
相手の気持ちを考えればわかるはず。  
だから、まずは考えてみませんか。  
笑顔にできれば、それが答えだから。

考えることから、はじめよう。

## 問題

なぜ、大人は言うことを聞きなさいと言うのに、  
子どもの言うことは聞いてくれないのでしょうか。



### 子どもと大人。どちらも同じ一人の人間です。

子どもは、一人の人間として尊重され、大人と同じように幸せに生きる権利があります。しかし、いじめ、体罰、虐待など、子どもの命や人権にかかわる深刻な問題が後を絶ちません。こうした問題を解決していくためには、誰もが自分の権利と共に、他人の権利と尊厳を大切にすることの重要性を理解するとともに、子どもが、心身ともに健やかに成長できる環境づくりを進めていくことが必要です。

### ……イラストの問題について

#### 大人の考えを押し付けていませんか？

成長・発達過程にある子どもは、大人に比べ、その権利を侵害されやすい存在です。例えば、頭ごなしに大人の考えを押し付けられたり、「しつけだから」などといって体罰を与えられたり。このように子どもの意見は間違っているという思い込みや大人が子どものためを思っていることが、実は子どもの健やかな成長を妨げているということもあります。

#### どうすればいいの？

#### 子どもの声に耳を傾けましょう。

「子どもだから」と一方的に決めつける前に、まずは子どもの考えや意見に向き合しましょう。「もしかしたら私が間違っているかもしれない」「子どもの意見が正しいかもしれない」と一度考えてみてはいかがでしょうか。また、日本は、「児童の権利に関する条約」に批准しています。「生きる権利」「守られる権利」「参加する権利」などを保障しているこの条約をもとに、子どもの権利について、大人と子ども双方で考え、話し合ってみることも、理解を深めるきっかけになるかもしれません。

# 性的少数者の人権

## 問題

なぜ、好きな人がいると言われると、異性のことだと思ってしまうのでしょうか。



### 「LGBT」という言葉をご存じですか？

LGBTとは、性的少数者を表す言葉の一つ。レズビアン(Lesbian・女性の同性愛者)、ゲイ(Gay・男性の同性愛者)、バイセクシュアル(Bisexual・両性愛者)、トランスジェンダー(Transgender・身体<sup>ふい</sup>の性と心<sup>いつち</sup>の性の不一致)の頭文字を組み合わせた言葉です。LGBT以外にも、男女どちらにも恋愛感情を抱かない人や、自分自身の性を決められない人など、性的指向(どのような性別を好きになるのかということ)や性自認(自分の性をどのように認識しているのかということ)は多様なのです。

### ……イラストの問題について

#### 異性だけが、恋愛対象とは限りません。

女性は男性を、男性は女性を好きになると思われがちですが、「同性を好きになる人」もいれば、「異性も同性も好きになる人」もいます。しかし、同性愛者、両性愛者の人の中には、少数派であるために差別や偏見<sup>へんけん</sup>で苦しんだり、自分の性的指向を家族や周囲の人に打ち明けられなかったりする人たちがいます。また、本人に了承<sup>りようしょう</sup>なく、性的指向や性自認を暴露<sup>ばくろ</sup>されること(アウティング)も、プライバシーに関わる重大な人権侵害<sup>しんがい</sup>として問題になっています。

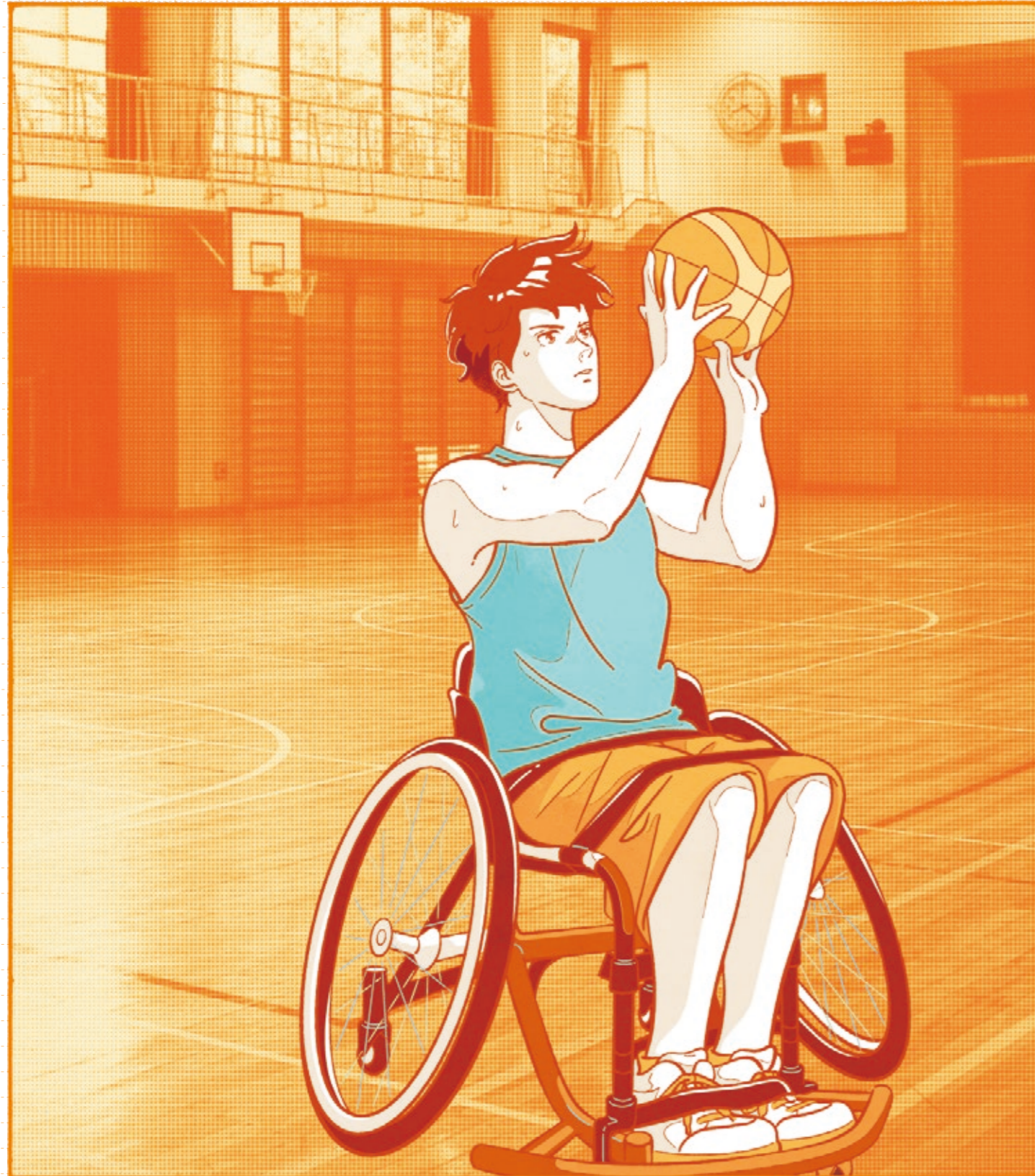
#### どうすればいいの？

#### 性の多様性を認め合いましょう。

LGBTなど性的少数者に該当<sup>がいたう</sup>する人は日本人の11人に1人<sup>\*</sup>の割合でいるとも言われています。もしかしたらあなたの隣<sup>となり</sup>で、あなたの言動に傷ついている人がいるかもしれません。打ち明けたくてもそれができない雰囲気<sup>ふんいき</sup>が学校や職場にあるかもしれません。まずは性の多様性について正しく理解し、知識を深めることが大切です。そうすることで、一人ひとりの性の多様性を認め合い、誰もが自分らしく生きることができる環境<sup>かんきよう</sup>をつくることができます。

## 問題

なぜ、できることではなく、  
できないことばかり注目されるのでしょうか。



### 障害は特別なことではありません。

日本では約14人に1人が何らかの障害があるとされています<sup>\*</sup>。障害があるといっても、生まれた時から障害のある人、病気や事故、加齢により障害者となる人、また、外見からわかる障害もあれば、わからない障害もあります。大切なのは、「障害のある人は特別な存在ではない」ということ。障害とは誰にとっても身近であり、決して他人事ではありません。

### ……イラストの問題について

#### 心のバリアを作っていませんか？

障害のある人が社会に参加するときに、大きな障壁(バリア)があります。例えば車椅子を使用する場合に、建物や道路にあるちょっとした段差でも移動しにくいという物理的なバリア。また、障害のある人に対する偏見や無理解・無関心といった「心のバリア」もあります。「障害があるから、きっとムリだろう」「障害があるから可哀そう」といった先入観や偏見が、障害のある人を傷つけたり、「周囲に障害のある人はいないだろう」といった思い込みが、外見からは障害がわからない人への配慮の妨げになったりすることもあるのです。

#### どうすればいいの？

#### その人の、個性や能力を見ましょう。

障害のあるなしにとらわれず、相手の立場に立って考えてみるのが大切です。できないことだけでなく、できることに目を向けてみましょう。それは、障害だけを見るのではなく、その人が持っている個性や能力を見ること。「障害があるから」と決めつけず、それぞれが持っている個性や能力を生かすためにはどうしたらよいかを一緒に考えてみませんか。考え、行動することによって、障害のあるなしにかかわらず、すべての人にとって暮らしやすい社会へとつながっていきます。

## 問題

なぜ、ウイルスだけでなく、  
人間にまでおびえなければいけないのでしょうか。



### おそ 恐ろしいのは、ウイルスだけではありません。

わたしたちの身の回りには、目には見えませんが、様々な細菌やウイルスがあります。その細菌やウイルスを原因とする病気を感染症といいます。誤った知識や偏見などから、これまで多くの人権侵害が起きてきました。例えば、エイズは、日常生活では感染することはほとんどなく、早期発見、早期治療により、発症を抑えることができますが、誤った知識などのため、エイズ患者の方々等は、日常生活の様々な場面において、差別に苦しんでいます。また、ハンセン病回復者の方々は、強制隔離政策のもと、長い間、人間らしく生きる権利を奪われてきました。

### ……イラストの問題について

### 差別やいじめは、「不安」や「恐怖」から生まれます。

今、世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症。感染拡大に伴い、感染者やその家族、医療従事者等に対する差別や誹謗中傷、いじめが大きな社会問題となっています。ウイルスによる感染がいつ終息するのか見通せず、不安を感じたり、感染することに恐怖を抱いたりすることがあります。こうした不安や恐怖から、ウイルス感染に関わる人や対象を差別し、遠ざけようとするのは、当事者を深く傷つけるだけでなく、正確な実態把握を困難にし、感染拡大防止の妨げにもなります。

### どうすればいいの？

### 偏見をなくし、正しい知識を持ちましょう。

公的機関の提供する正確な情報入手し、冷静な行動に努めましょう。憶測や噂を鵜呑みにせず、また、それらを安易に拡散しないよう注意してください。インターネットなどには、たくさんの情報があふれていますが、それは本当に正しい情報でしょうか？一度立ち止まって考えてみましょう。不確かな情報に惑わされて、人権侵害につながることを避けよう、一人ひとりが正しい知識を持つことが大切です。

## 問題

なぜ、名前や顔が見えないだけで、誰かを傷つけても平気になってしまうのでしょうか。



## インターネットは暮らしを豊かにする道具です。

1億人を超えた日本のインターネットの利用者数<sup>\*</sup>。スマートフォンの急速な普及<sup>ふきゅう</sup>により、いつでもどこでもインターネットに接続できるようになり、私たちの生活にとって、とても身近で大きな存在になっています。一方で、インターネットの使い方を間違えたり、無責任な噂<sup>うわさ</sup>を書き込むと、誰かを傷つけたり、トラブルに巻き込まれたりする恐れも。近年、インターネットによる人権侵害<sup>しんがい</sup>が増加しています。

## ……イラストの問題について

## 顔や名前が分からなくても、画面の向こうには「人」がいます。

SNSでは、身近な人だけでなく、憧れ<sup>あこが</sup>の芸能人や世界中の人々と直接コミュニケーションをとったり、自由に自分の意見を発信したりすることができます。しかし、一方で、匿名<sup>とくめい</sup>で発信できることを利用した心無い悪口や誹謗中傷<sup>ひぼうちゅうしょう</sup>が問題となっており、さらには、誹謗中傷を理由に自ら命を絶ってしまうという痛ましい事件も起きています。「匿名だから何を書き込んでもバレない」とか「みんなが書き込んでいるから便乗しよう」といった理由で投稿した言葉が、画面の向こうの人の心をひどく傷つけているかもしれません。

## どうすればいいの？

## 書き込む前に、相手の気持ちを想像してみよう。

パソコンやスマートフォンの画面の向こうにいるのは、あなたと同じように喜んだり悲しんだりする、様々な感情を持った人間です。コメントを投稿する前に一度「書き込む言葉で傷つく人がいないか」と想像してみてください。悪口や個人のプライバシーに関わる情報などを書き込まないことはもちろん、他人の悪口に便乗してあおったり、不確かな情報を拡散させたりしないことにも注意しましょう。

## 問題

なぜ、言葉が少し通じないだけで、何も通じないと思われてしまうのでしょうか。



### 多文化共生社会をめざして

世界的にグローバル化が進む中、日本でも外国人の住民が増えています。愛知県内にも28万人を超える外国人が住んでおり、職場や学校など日常生活の様々な場面で接する機会が増えているのではないのでしょうか。今後は、新たな在留資格や国際的なスポーツイベントが日本で開催されることなどで、さらに外国人との関わりが増えるかもしれません。日本人も外国人も豊かに安心して暮らすことのできる多文化共生社会の実現が求められています。

### ……イラストの問題について

#### コミュニケーションを大切に。

日本に住む外国人の方は、母国とは文化や習慣、言葉が違うことや、生活する上でのルールが異なることで、地域での生活に戸惑うことがあります。こうした戸惑いを解消し、地域で一緒に暮らしていくには、お互いにコミュニケーションをとることが欠かせません。しかし、日本に住む外国人の中には、日本語が通じにくいことを理由に、地域社会から孤立してしまう人がいます。

#### どうすればいいの？

#### 「違い」を理解し、認め合いましょう。

外国人の方が地域で生活する中で分からないことがある場合は、日本語が分かる同じ国の人を頼ったり、地域のことをよく知っている外国語の分かる人に聞いたり、職場の人に手伝ってもらったりなど、いろいろな方法があります。しかし、同じ地域に住む住民として、外国人の方に目を向け、「違い」を理解し、関心を持つことで、つながりが生まれることがあります。そのつながりからお互いに助け合う関係が生まれ、文化や言葉の違いに関わらず、同じ地域に住む住民同士、快適に暮らせる地域ができていくのではないのでしょうか。